

ロシア極東経済と朝鮮半島(前編)

環日本海貿易交流センター・アドバイザー 白鳥正明

本稿はウラジオストク市の「ゾラトイ・ログ」新聞社発行の月刊誌『ダリネヴァストーチヌイ・カピタル』2004年1月号に掲載された、ロシア極東と韓国及び朝鮮民主主義人民共和国との貿易・投資、経済交流に関する論評（ 、「 」、《 》、<http://kapital.zrpress.ru/subjnum/2004/0101.asp>）の要訳で、本号(No.59)と次号(No.60)に分けて掲載する。なお、「朝鮮民主主義人民共和国」の表現は、原文に従い「北朝鮮」又は英略語“PDRK”を使用した。

ロシアと韓国の政治・経済関係

ロシア極東は中央部から遠く、また経済取引関係の崩壊で、アジア太平洋地域の近隣諸国と経済的に結合せざるを得なくなった。最近、韓国はロシア極東の最も重要な経済パートナーになり、朝鮮民主主義人民共和国(PDRK)との協力でも多くの展望が開けてきた。

韓国はアジア新興国の一つであり、朝鮮戦争(1950-53年)の破壊を再建して主要工業国に躍進し、経済規模は世界第12位である。ロシアとの外交関係は1990年に確立されて日が浅いが、ロシア極東連邦管区の各地方・州にとって重要な貿易・投資の相手国になった。

現在、ロシアと韓国の間には何らの政治問題もなく、両国は北東アジア地域でも世界市場でも協力している。過去13年間に10回の首脳会談が行われ、年間貿易額は30億ドル、相互交流に参加して

いる人口は20万人に達している。韓国はロシアへの主要投資国の中でまだ重要ではないが、潜在的にはロシアにとって最も有望である。ロシアと韓国とのテクノロジー・ギャップは、ロシアと日本とのギャップほど大きくはない。また、韓国の大企業は、中国や台湾の企業よりもロシアへの戦略的な投資決定が早い。投資余力は1997年の経済危機でかなりの損害を受けたが、情勢が安定した現在、2国間の協力には新たな展望がある。経済協力拡大への障害は、韓国に対する旧ソ連債務である。深刻な危機から脱出したロシア経済は協力拡大でこの問題を早急に解決できるだろう。

北朝鮮(PDRK)とロシア極東とのビジネスは、好ましくない国際政治情勢にも関わらず、南北朝鮮の統一に大きく貢献できる。北朝鮮(PDRK)のロシア極東への関心は、外交公館の存在が裏書きしている。1958年、ナホトカに最初の外交公館と

して朝鮮民主主義人民共和国(PDRK)の総領事館が開設された。

韓国の総領事館は1992年、ウラジオストクに設置され、総領事館商業部の機能は韓国貿易投資庁(KOTRA)ウラジオストク代表部が担当し、韓国商品を積極的に極東市場に売り込んでいる。現在、14ヶ国の外国代表部が極東で活動中であるが、KOTRAほど頻繁に見本市を開いたところはない。KOTRAは1962年に設立され全世界に101ヶ所の代表部をもっている。ウラジオストクのKOTRA代表部は、シベリアと極東の沿海、ハバロフスク、クラスノヤルスク各地方、サハ、ブリヤート、ツイヴァ各共和国、ユダヤ人自治州、アムール、イルクーツク、カムチャッカ、サハリン、マガダン各州、チュコト自治管区を管轄している。

韓国のロシア貿易は第13位

韓国貿易に占めるロシアの地位は第13位にすぎないが、投資に先立って韓国商品がロシア極東に輸出された。韓国商品は、低品質で安い中国製品や品質はよいが高価な日本製品と激しく競争してきた。現在、韓国はロシアへの安い食料品、衣料、履物、家具、その他消費財、建設資材、家電製品、自動車、石油製品の供給国であり、世界的に有名なトレード・マークである、サムスン(三星)、LG、ダエウー(大宇)は極東のロシア人にもよく知られている。

ロシア極東の韓国貿易

沿海地方にとって韓国は最大の貿易相手国で、98年危機後、輸出入ともに増加してきた。

2003年1～9月間の沿海地方からの輸出額は1億3,140万ドル、輸入額は1億7,130万ドルで、沿海地方貿易額の23%を占めていた。2002年の輸入額は最大の増加を示し2億4,720万ドル(2001年比44%増)に達した。輸入品は、食料品、化学工業製品、

ニット布地、工作機械であった。沿海地方からは、過去5年間に魚類・海産物、石炭、硼酸、原木の輸出が大幅増加し、2001年から木材加工品や軽工業製品等の加工品輸出の増加傾向も見られた。2002年の韓国との貿易額は4億4,500万ドル(貿易総額の24.7%)、輸出額は1億9,820万ドル(1.4%減)で、主要輸出品は魚類・海産物(52%)、石炭(6%)、鉄屑(12%)、原木(10%)、硼素・硼酸(6%)等であった。

沿海地方の韓国向け輸出は、貿易全体の傾向と同様に原料が中心である。工業製品の低い競争力が輸出増加を妨げているのである。輸入品の多くは委託加工用の韓国製原料で、その大部分がニット布地、ミシン等で、韓国資本参加で設立された縫製工場に供給されている。加工製品である男性用シャツ、サッカー服、その他はアメリカに輸出されている。

ハバロフスク地方では韓国向け輸出が第3位を占めているが、2002年のシェアは6%にすぎなかった。2003年1～9月間のハバロフスク地方と韓国との貿易額は9,260万ドル(前年比35.9%増)で、輸出が7,320万ドル、輸入が1,940万ドル(21.8%増)であった。輸出品は、原木(27%)、魚類・甲殻類(26%)、鉄屑(20%)、石油製品(15%)、サービス(6%)、木材(3%)、衣類(1%)等である。2003年9ヶ月間の石油製品輸出量は6倍に増加して64,000トン、1,100万ドルに達した。これは、世界的な石油価格の上昇とアジア太平洋地域の石油製品需要の増加による。石油製品の輸出構造のうち、軽油と特殊精製油の割合が99%を占めた。2003年から原木の輸出が大幅に減少して1,990万ドル(17.3%減)になったが、日本と中国市場の回復にも拘らず、韓国市場の不況が続いたためである。もう一つの原因は海上運賃の上昇で、ロシア極東の木材はマレーシアと比較して競争力が弱くなったが、木材グループの輸出は12.9千トンから14.8千

トンへと増加し、輸出代金は220万ドル(17.6%増)に達した。増加傾向は他の商品でもみられ、たとえば、鉄屑の輸出は60%も増加して167,300トンに達し、魚類・甲殻類の輸出は2倍(25,300トン)になり、サービス輸出も460万ドル(11.2%増)に増えた。しかし、2003年1～9月間に委託加工衣料品輸出が数量でも金額でも減少して、293,700着(62%減)987,000ドル(73%減)に減った。

輸入品は、機械・設備・輸送機械(36%)、サービス(12%)、石油製品(11%)、化学工業製品(10%)、合成・綿織物(9%)、金属・同製品(9%)、食料品(1%)等で、主要な輸入機械は、冷蔵庫、冷凍機、ブルドーザー、エクスカベーター、洗濯機、蓄電器、旅客バス、医療設備であった。

カムチャッカ州は、韓国の対外貿易で最もシェアが大きい地域であった。2003年1～9月間のカムチャッカ州のシェアは45.4%で、日本(30.73%)、アメリカ(7.81%)、ドイツ(5.05%)よりもはるかに大きかった。魚類・水産物輸出の約4分の1が韓国向けであったためである。2003年1～9月間のカムチャッカ州の輸出は4,250万ドル、輸入は540万ドルで、輸入品は石油・石油製品、建設資材、包装材料、鉄鋼構造物、集中暖房ボイラー、冷蔵庫、食料品製造設備、電波探知機、自動車、漁船等であった。

サハ共和国(ヤクーチア)の韓国向け輸出を独占しているのは石炭である。2003年1～9月間の貿易総額1,960万ドルのうち石炭輸出額は1,940万ドルを占めていた。2002年の貿易総額は1,607万ドルで同共和国貿易総額の1.4%にすぎなかったが、石炭は335,120トン、1,583万ドルであった。2002年の輸出には宝石188,000ドル、宝石製品215,600ドル、の他に木材加工品もあった。韓国からの輸入は2002年に458,000ドルで、2003年1～9月間に21,600ドルにすぎなかったが、主として設備機械、石油・石油製品であった。

2010年には韓国の天然ガス消費量が年間100～120億 m^3 と予測されているので、サハ共和国から天然ガスの韓国向け供給で輸出拡大が期待されている。また、同共和国には石油、鉄、非鉄金属及び希少金属が埋蔵され、また巨大な木材資源もあり、アジア諸国の関心を集めている。ヤクーチアの事業者は今後、石炭、原木・加工木材、土産品、宝石・同製品の輸出増加に関心を示している。

サハリン州も韓国の主要な貿易相手である。距離的に近く韓国に親戚をもつ多数の朝鮮系住民(約4万人)もいる。2002年のサハリン州と韓国との貿易は2億8,490万ドル(サハリン州貿易総額の29%)で、輸出額は2億6,420万ドルであった。主要輸出品は石油110万トン、2億500万ドル、魚類・海産物11,800トン、1,330万ドル、木材331,700 m^3 、1,460万ドル、鉄・非鉄金属屑(46,900トン)である。主要輸入品は、食料品、生活必需品、衣類、履物である。

アムール州の韓国向け輸出品は主として木材、鉄屑であり、輸入品は家具、バス、マイクロバス、建設資材、環境衛生設備等である。アムール州行政庁は、木材加工品、各種クレーン、農産物、薬用野生植物で輸出品構造を拡大できると考えている。2003年1～9月間の韓国との貿易額は1,093,400ドルで、輸出額は696,800ドル、輸入が396,600ドルであった。

2003年1～9月の**ユダヤ人自治州**と韓国の貿易額は310万ドルで、輸出170万ドル、輸入140万ドルであった。輸出品は全部が衣料品で、「ミジン」社発注による(株)エレガント社製品である。輸入品の94%は同社製品の原料生地である。過去2年間輸出入品の構成は変化していない。

沿海地方を好む韓国投資

韓国企業はロシアへの大規模な投資には慎重である。2001年のロシア極東への韓国投資額は2億

4,400万ドル、2002年は2億7,200万ドルで、その大部分は沿海地方への投資であった。

国家統計委員会資料によると、韓国の沿海地方向け投資累計額は2003年初現在で1億4,860万ドル、外国投資累計総額の43.7%であった。

2002年間の沿海地方向け韓国投資額は2,134万ドルで、縫製工業、漁業（(株)ダリルイブ、(有)インソフ・マリン、(株)アリジェナ）、農業（(有)シンソン）及び卸売商業（(株)ジーピー、(株)沿海漁船）への投資であった。2003年上半期には韓国資本が、農業（(有)アグロ・サンセンの肉牛・乳牛畜産業）、ジャガイモ及び野菜栽培（(有)シンソン、(有)ボンサム）、メリヤス縫製工業（(有)ケイ・インタナショナル、(有)ソルテクス）に投資された。

沿海における共同出資企業のパイオニアは、1992年に設立された(株)ノヴァヤ・テレフォンナヤ・カンパニヤ（HTK）である。現在、同社は地元電話通信、無線ラジオ電話通信、標準GSM、インターネット・IP電話接続の4事業サービスを提供しており、主要株主には「韓国テレコム」がいる。沿海地方の中心都市で目に見える象徴は、1997年に建設された**現代ホテル**（ウラジオストク・ビジネス・センター）で、四ツ星マークを保有し、オフィス・スペース、コンファレンス・ホール、商業施設、スポーツ施設、レストランを備えている。

最近の韓国出資事業には**委託加工縫製業**が沿海地方に多いが、他の地域でも、地元企業が韓国企業から注文を受けている。沿海地方の軽工業生産量の約80%が韓国出資企業によるもので、現在、沿海地方には23の縫製工場、梱包材料製造会社が2社ある。雇用労働者数は9,700人で、2003年1～9月間の生産額は5億3,067万ルーブル（前年同期比2%増）納税額2,148万ルーブル（2002年は1,265万ルーブル）であった。沿海地方・地元当局の韓国出資企業の評価は単純ではない。女性の失業率が高い小都市や村落で雇用が創出されているが、

低賃金、残業、悪条件への苦情が絶えない。委託加工労働の利益はすべて韓国にもたらされているが、韓国ビジネスマンは目立たずに沿海地方から立ち去りつつあり、すでに4縫製工場が操業を停止した。韓国人事業家は沿海地方での事業の将来性を信頼していないのである。

2002年には中国人女性作業員の導入問題が発生し、2003年には約900人（約10%）が雇用されていたが、2004年には2,300人の雇用計画が申請されている。また、2004年1月1日から施行されたロシア関税法典の運用がはっきりしないため、韓国と沿海地方の間を往復するビジネスマンのビザ取得が困難になった。近い将来、沿海地方の韓国出資縫製企業の大部分はベトナムや他の国に移動するだろう。

ウスリースクの家電製造オケアン工場

韓国との協力で将来性があるのは、ウスリースクの家電器具製造である。**オケアン工場**では固有商標「オケアン」の冷蔵庫と洗濯機を製造し、LG、ダエウー（大宇）その他世界的なメーカーのブランドによる組立て技術を開発した。またオケアン工場は、オケアン、LG、ダエウー（大宇）KONKAブランドのTV組立てコンベヤーも操業している。オケアン工場の生産・販売高は、冷蔵庫3千台、TV1万5千台、洗濯機5千台で、その製品は、極東マガダン州からロシア西部ボルゴグラードの電気店でも見られる。

韓国企業へのロシアの発注も少なくない。たとえば、**現代重工業**（Hyundai Heavy Industries）**造船所**は(株)極東海運（FESCO）向けにタンカー3隻を建造中で2005年3月に竣工予定である。FESCO発表によると、エクソン石油ガス会社と総額4億ドル、10年間のサハリン-Iプロジェクト石油輸送契約が2003年6月16日に調印された。

（次号続く）